

きんぞく げいじゅつか
金属の芸術家

ばんきんや
板金屋さん



よこはましぎのうぶんかかいかん
横浜市技能文化会館

ばんきんや 板金屋さんって どんなしごと？

ばんきんや うす たい の きんぞく いた き たた
板金屋さんは薄く平らに延ばした金属の板を切ったり叩い
たり曲げたりして加工する職人です。

ばんきん つか いえ や ね じんじゃ
板金はいろいろなものに使われており、家の屋根、神社
やお寺の飾り、工場の配管、自動車のボディや飛行機の翼
などそれぞれ職人も専門的に分かれています。ここでは
けんちくばんきん せつめい
建築板金について説明します。

けんちく ばんきんや いえ や ね づく ちゆうしん
建築での板金屋さんのしごとは家の屋根作りが中心とな
ります。今では工場で大量生産されている屋根の部品を使
っていますが、かつては金属屋根のひとつひとつを板金屋さ
んが作っていました。とはいってもその屋根を設置するには
げんざい しょくにん ちしき ぎじゆつ ひつよう あま
現在でも職人の知識と技術が必要になります。また、雨どい
げんざい えんか しゆりゆう や ね ぜんたい つく
は現在は塩化ビニールのものが主流ですが、屋根全体を作
る板金屋さんのしごとのひとつです。

ばんきんや わざ 板金屋さんの技その1

☆工場での板金

工場ではたくさんのパイプが使われています。空気を通すためのダクトや液体もしくは固形物を流すパイプなど用途はさまざまです。パイプでの板金屋さんの腕の見せ所はパイプの曲がり角にあります。手作りのパイプは大量生産されたものより優れていて、スムーズに空気やものが流れるようになっています。それを知っている工場の人々は手作りのものを好んで使い、工場の効率を上げるのに一役買っています。



左の型に切った金属の板を丸く曲げ、6個つなげて曲がり角を作ります。

ばんきんや わざ 板金屋さんの技その2

☆家屋での板金

屋根を金属で作っている場合は板金屋さんのしごとです。

材料は亜鉛めっきされた鋼板や銅板などさまざまで、形も瓦

に近いものもあります。大量生産されている屋根の材料を並べ

るだけとあなどってはいけません。屋根の広さによって細かく

計算し、何千枚もの金属板を美しく頑丈に取り付けるには職人

の技術が必要です。



↑屋根の材料となる金属板。



ばんきんや わざ 板金屋さんの技その3

☆^{じんじゃ}神社・^{てら}お寺での^{ばんきん}板金

^{じんじゃ}神社や^{てら}お寺で^{みどりいろ}緑色の^{やね}屋根が^{つか}使われているのを見たことがある
でしょうか。あれは^{どう}銅でできていて、^{もと}元は^{しんぴん}新品の^{えんだま}10円玉の^{いろ}色
をしていました。その^{どう}銅が^さ錆びて^{あおみどりいろ}青緑色になっているもので、
とても^{おもむき}趣があります。

またそれだけでなく、^{ちゅういぶか}注意深く^み見ると^{じんじゃ}神社や^{てら}お寺の^{たてもの}建物の^{はしら}柱
や^{はり}梁に^{きんぞく}ところどころ^{かざ}金属で^{かざ}飾りがつけられているのがわかりま
す。これも^{ばんきんや}板金屋さんの^{しごと}しごとです。特に^{おにいた}鬼板と^よ呼ばれる^{やね}屋根
^{かざ}飾りは^{たいへんむずか}大変^{むかし}難しい^{しよくにん}ものです。デザインは^{だいだい}昔の^う職人から^う代々受
け^つ継がれているものや、^{げんだい}現代の^{しよくにん}職人が^うデザインした^うものもあ
り、^{ぎじゆつ}技術を^{きそ}競っています。



↑^{じんじゃ}神社の^{やね}屋根と^{かざ}飾りに^{ちゅうもく}注目！



↑^{かんせい}完成した^{じんじゃ}神社の^{かざ}飾り。



↑^{せいさくとちゆう}製作途中の^{おにいた}鬼板。

ばんきんや とうぐ 板金屋さんの道具

きんぞく いた き たた ま どうぐ つか
金属の板を切る・叩く・曲げる・くっつけるための道具を使いま
じつ どうぐ むかし へんか つか
す。実は道具は昔からあまり変化がありませんが、それを使う
ぎじゆつ しょくにん せんれん
技術が職人によって洗練されてきているのです。



↑いろいろな形のカナヅチ。



↑金属の板を切る機械。



↑たくさんのタガネ。カナヅチで打って板に模様をつけます。↑



↑金属をつなげるのに使うコテ。



↑電気式のコテ。

ばんきんや 板金屋さんの歴史

ひろ きんぞくか こう み すうせんねん れきし
広く金属加工として見てみると、それこそ数千年の歴史が
あります。ばんきん うす きんぞく いた つく か こう
板金という薄い金属の板を作って加工することだ
けを見ると、16世紀ごろに始まったとされています。

にほん かざ こばん つく しよくにん
日本ではかんざしの飾りや小判などを作っていた職人が
ばんきんや えだわ
板金屋さんのもととされています。そこから枝分かれしてい
き、ひとむかしまえ や い なべ つく
き、一昔前はブリキ屋さんと言われて鍋ややかんなどを作っ
たり修理したりしていました。それから時代とともにそういっ
た製作をするしごとは すがた け かおく やね がいへき
た製作をするしごとは姿を消していき、家屋の屋根・外壁へ
きんぞくばん と つ
金属板を取り付けるしごとをするようになりました。

むかし ぎじゆつ ばんきんぎようかい こうしゆう
ただ、昔の技術をなくさないためにも、板金業界は講習
かい ばんきんぎじゆつ しけん かいさい ぎのう けいしyou ほぞん おこな
会や板金技術の試験を開催して技能の継承・保存を行って
います。



↑ 検定課題のじょうろの口と工業部品。↑

ばんきんや 板金屋さんの魅力

げんえき しょくにん しごと おもしろ き
現役の職人さんに仕事の面白さを聞きました！

かぶしきがいしゃ べっ ぶ ばんきんこうぎょうしょ べっ ぶ
☆株式会社 別府板金工業所 別府さん

すべ しょくにん きょうつう おも
全てのものづくり職人に共通することだと思いますが、
たんじゆん つく たの げんざいつた
単純にもものを作る楽しさがあります。現在伝わっていない
せんじん ぎじゆつ み あたま なや かた はっけん
先人の技術を見て頭を悩ませ、あるときそのやり方を発見
したときは感動します。

じんじゃ てら けんちく たずさ ひと なまえ ほうのう
また、神社やお寺には建築に携わった人の名前が奉納
され、これからもずっと残っていくものなので、自分の技術
の証をたくさんの人に見てもらえるのが嬉しいです。私も
あかし ひと み うれ わたし
いろいろな神社やお寺を見て勉強しているので、たくさんの
わか しょくにん み
若い職人に見てもらいたいです。



ばんきんや 板金屋さんになるには？

ばんきん がっこう しょくぎょうのうりよくかいはっこう
板金の学校として職業能力開発校があります。もしくは
ばんきん かいしゃ はい しゅぎょう
板金の会社に入って修行します。

いちにんまえ ねん
一人前になるには10年くらいかかるといいます。また、
おにいた つく ねん
鬼板をしっかりと作れるようになるには20年もかかるそう
す。ばんきん おもしろ おも ばんきん おも き も つよ
す。板金を面白いと思ひ、板金をやりたいと思ひ気持ちが強
ひと む ま き つよ ひと
い人が向ひているそうです。また、負けん気の強ひ人はどん
どんうまくなつていくとのことです。

せんじん のこ いさん ぎじゅつ すく
先人の残した遺産ともいえる技術が少なくなつています。
ぎじゅつ き ひと
その技術をなくさないために、なによりも「やる気」のある人
がなつて欲しい職業です。



↑めいじ つか しゅう
明治から使われている“デザイン集”



↑べっぶ さくひん しろうと
別府さんのおじさんの作品。素人には
わからない、“かみさま”といわれたおじさん
のぎじゅつ しんずい
技術の真髓がこめられているそうです。